

## D/C モザイク型毒素を産生する *Clostridium botulinum* による牛ボツリヌス症の 1 例

中尾聡子<sup>1)†</sup> 奥村尚子<sup>2)</sup> 荒木美穂<sup>3)</sup> 青木雄也<sup>3)</sup>  
岩垣つぐみ<sup>4)</sup> 上江洲浩一<sup>5)</sup>



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/9/76\\_e237/\\_article-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/9/76_e237/_article-char/ja/)

- 1) 沖縄県八重山家畜保健衛生所 (〒 907-0243 石垣市宮良 1-2)
- 2) 沖縄県家畜衛生試験場 (〒 904-2241 うるま市兼箇段 3-1)
- 3) 沖縄県中央家畜保健衛生所 (〒 901-1202 南城市大里字大里 2085)
- 4) 沖縄県北部家畜保健衛生所 (〒 905-0012 名護市名護 4606-4)
- 5) 沖縄県農業共済組合中央家畜診療所中部出張所 (〒 904-2215 うるま市みどり町 5-15-11)

(2022 年 11 月 25 日受付・2023 年 5 月 2 日受理・2023 年 9 月 28 日公開)

### 要 約

2022 年 10 月に 3 頭の肉用繁殖雌牛が起立不能, 流涎, 第一胃運動停止, 排便停止及び低体温を呈して死亡した。ボツリヌス毒素検査の結果, 発症牛の消化管内容物と畜舎内のカラスの糞の培養液から D 型ボツリヌス毒素と D/C モザイク毒素遺伝子が検出された。病理組織学的検査では, 発症牛の第一胃と心臓に壊死性血管炎が認められた。疫学調査, 臨床所見及びボツリヌス毒素検査の結果から, 本症例は D/C モザイク毒素遺伝子を産生する *Clostridium botulinum* による牛ボツリヌス症と診断された。発症牛はカラスの糞に含まれるボツリヌス菌の芽胞を摂取して発症したと考えられた。当該農場では発症予防としてボツリヌスワクチンの接種と防鳥ネットの設置を実施した。本症の発生予防には農場の清掃と消毒に加えて野生動物の侵入防止対策が重要である。

——キーワード: 牛ボツリヌス症, カラス, D/C モザイク型遺伝子。

-----日獣会誌 76, e237~e242 (2023)